

病害虫情報 No.9

斑点米カメムシ類の発生に注意してください。

[現在の状況]

8 月上旬現在，県央・県北地域における斑点米カメムシ類の発生量は平年よりやや多く，発生地点率は高い。鹿行地域における発生量はやや多い（表 1）。

今年のクモヘリカメムシの発生時期は，平年よりやや早い。本年は，水稻の出穂前に，周辺雑草でふ化した幼虫が観察されている。また，水田内でも，すでに幼虫が観察されている。

表 1 水田における斑点米カメムシ類の発生状況（8 月上旬調査）

地 域 (調査地点数)	発生地点率 (%)		すくい取り虫数の平均 (頭/10 回振りあたり)				発生程度別地点数				
	本年	平年	本年	平成12	平年	順位	甚	多	中	少	無
県央・県北 (28)	41	17	1.3	18.5	2.0	2/11	0	2	4	6	16
鹿行 (6)	33	34	2.9	5.7	1.2	3/11	1	0	0	1	4
県南 (19)	32	18	0.4	1.1	0.3	5/11	0	0	1	5	13
県西 (12)	8	9	0.1	0.5	0.1	7/11	0	0	0	1	11
全県 (65)	32	21	1.0	9.6	1.4	2/10	1	2	5	13	44

平年は過去 10 年の平均。平成 12 年に斑点米カメムシ類が多発したため，平年値が押し上げられている。順位は，本年を含む過去年数中の順位。

[防除対策]

斑点米が発生しやすいのは，乳熟期以降に被害を受ける場合である。カメムシ類の発生が多い場合には，穂揃期の防除だけは不十分なので，出穂期から 15 日後頃に（対象：幼虫），さらに薬剤防除を実施する。

今年のクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は，県央・県北・鹿行地域は 8 月 15～20 日頃である。成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。防除の際には，収穫前日数等の農薬使用基準にしたがって使用する。

表 2 稲のカメムシ類の主な防除薬剤（平成 21 年 8 月 5 日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	本剤の使用回数	有効成分	有効成分の総使用回数
スタークル/アルバリ ン顆粒水溶剤	2,000 倍	7 日	3 回	ジノテフラン	4 回(但し本田では3回以内)
MR・ジョーカーEW	2,000 倍	1 4 日	2 回	シラフルオフェン	2 回
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍	1 4 日	2 回	エチプロール	2 回

今後の注意：

現在発生が少ない地域でも，羽化した新成虫が侵入してくることがあります。また，稲刈りが始まると，そこからカメムシが追い出され，生息場所を求めて別の水田へと移動します。このため，周りよりも遅くまでイネが残っている水田では，カメムシ密度が高まる可能性があります。このような水田では，発生に十分注意してください。